

## 令和6年度 第2回文化振興委員会 会議要旨

令和6年9月3日(火) 午後3時～  
豊田市民文化会館 会議室 A

出席者(敬称略)

委員	原田眞二(委員長)、葵真弓(副委員長)、相田祐里、小出充訓、原小百合、半田将仁(Zoom)	
オブザーバー	豊田彬子(理事長)、藤本聡(専務理事)	
事務局	岡本晴貴(文化部長) 〔文化事業課〕 原田秀樹(課長)、柴田崇博(副主幹)	〔市民文化会館〕 鈴木光行(所長)、梅村陽子(副所長)

### 1 あいさつ

豊田理事長  
原田委員長

### 2 前回の委員会議事録の確認

「令和6年度 第1回文化振興委員会 議事録」

### 3 報告事項

#### (1) 令和6年度前期モニタリング報告

##### ●『市民アート展』

委員 すごく楽しかった。レイアウトが良く、見やすかった。担当者・参加者とも事業目的が共有できていたことが印象的だった。次回に向けてアナウンスやワークショップがあっても良かったと思う。

##### ●『つながりリビング「みんなの楽器」』

委員 「みんなの楽器」の講師の方によると、つながりリビングでの事業は、カフェの営業中に実施しているため、お客様がいる中で、どこまで音を出しているのか判断が難しい。また、展示室 A での利用がある場合に、影響を考えると音量の判断に迷う。できれば事業実施中に文化会館職員の立ち合いが欲しいと言われていた。また、集客に向けては、わかりやすい表示をするなど、工夫が必要であると思う。音出し NG の催し物があれば、扉を閉める、または、マイクを無しにするなどスケジュールを決めれば良いと思う。

部活動が縮小されていく中で、この場所をうまく使えば、音楽3団体に入れな  
い子たちの受け皿になると思う。

事務局 事業担当者が、講師の方などと今後もよくコミュニケーションをとって進めたい。

##### ●『げきじょうたんけんツアー2024』

委員 「げきじょうたんけんツアー」は、対象が子どもなので、子どもの視点で参加した。探検ツアーというタイトルがついていたので、ワクワク感を持ちながら受付に行ったが、非常に静かだった。2グループに分けて、照明室と舞台の見学をしたが、普段見ることができない所を案内していて良かった。ただ「探検」というイメージは薄かった。チラシには、所用時間が1時間になっていたが、少し長く感じた。事

業目的の1番目「舞台の仕事を知ってもらい身近に感じる」について、仕事内容を知ることはできたと思うが、身近に感じたかは不明である。2番目「公演へ興味を持ち、来場するきっかけ」については、つながるか疑問である。長期的目的の1番目については、キャッチなイベントを継続して実施できるかがポイントだと思う。参加者の中には、初めて来館した子どももいたので、目標達成になった部分もある。提案だが、受付の職員もディズニーランドのように衣装を着てみるとか、BGMを探検のようにするとか、雰囲気作りをするだけでも子どもたちは楽しめると思う。開始までの時間は、冊子などでクイズを出して、例えば客席数を答えさせるようなクイズをすれば、ワクワク感が出るのではないか。冊子の話は昨年にも出ていたので、引き続き改善を希望する。さらに、ロビーなどの装飾として、過去の子どもの向け事業のポスターなどを掲示すると、子どもは、会館でどんなイベントが日ごろ行われているのか知って、興味が増すと思う。体験コースと探検コースを分けて行くとスタッフ不足となるのであれば、財団志望の大学生にこの期間インターンシップを実施してはどうか。多文化共生の話が出るが、外国籍の方の参加はなかったので、PR方法を検討してはどうか。

委員　今回は、小ホール（昨年度は大ホール）ということで、内容に限りがあると思ったが、照明機材を使って、自分で作った演出照明をバックに写真を撮るというアイデアは良かった。改善点を挙げるとすると、ツアー全体にストーリー性を持たせれば、より入り込めるのではないか。A館の探検ツアーでは、手帳を使ってなぞ解きをして、見習い隊員から正隊員を目指す。正隊員になれば、認定証を渡すということをしている。ここでひと工夫があって、始まる前に集合写真を撮って、認定書の裏側に貼っている。今年、インターンを受け入れているが、この時期に合わせて実施し、スタッフとして参加している。全ての業務を職員が担うのは大変なので、「演劇ファクトリー」の役者志望の人たちに、隊長役を演じてもらえれば、その人たちにもいい経験になると思う。そのように他の事業と組み合わせることも想定してみてもどうか。コンサートホールでもバックヤードツアーはやっていると思うので、コラボして1つの事業としてはどうか。そうすることで、コンサートホールの予算も使えるし、参加者もどの施設に参加するか選択肢が増える。また、次のアクションだが、参加者へメルマガなどを使って次の公演の案内ができるように、仕組み作りやアナウンスをしてもいいと思う。探検ツアーの参加者は、コアターゲットになり得る。そういった人の次のステップへの告知方法は検討した方がいい。A館の探検ツアーも10年やっているが、だんだん人が集まらなくなっている。例えば、ナゴヤドームや豊田スタジアムでは、ベンチ裏が見えるツアーなどを行っているが、そこの参加者は、既に野球が好き、サッカーが好き、この選手が好きなどあって、そもそも好きでないと裏が見たいなどは思わない。次につながる情報提供の仕方などを考えると良い。

委員　もともとこの事業は、費用も人の負担もかけないで、空いているホールの有効活用から始まった事業と認識している。これまでの各委員からのご意見は、もっともだと思うし、期待の裏返しだと思う。これからプログラムを増やしていくと聞いているので、この事業のステージを1つ上げるタイミングに来ていると思う。そうするには、人件費やプログラムの制作費がかかってくるのでそれをどのように考えるのか課題であると思う。

●『市民アートプロジェクト「こどもアート縁日」』

委員 縁日と聞くと期待感があり、部屋には仕切りがないため、一体感があってよかった。ワークショップは、基本モノ作りで、うちわにシールを張るとか、和紙でカードケース作りなどだった。縁日の中に「演劇プログラム」あるのはどうかと思ったが、内容は、参加者が主人公になり、劇団員が脇役として演じるもの。台本は、主人公のアドリブがあって成立するものになっている。意外と人気があり、参加者によってアドリブが違って面白かった。モノ作りだけでなく、目立っていてよかった。ただ、会場は、縁日と謳ってあったが、提灯が小さく、雰囲気作りとしては少し寂しかった。柔道場を使っているため、畳の上を歩く関係で、足元がふわふわして落ち着かなかった。予算についても、この事業単発でどのくらいかかったのか知りたかった。演劇プログラムは良かったが、暗めの会場とBGMなどを流して雰囲気づくりをもう少し工夫して欲しい。

●『とよた演劇ファクトリー』

委員 「演出講義（二ノキノコスター）」をモニタリングした。受講生が10代から70代まで幅広く、なおかつ、参加経験が1年目や3年目が混在しているなど、様々な参加形態で多様な23名だった。重要だと思ったことは、演出も演技も自分の中にあるものから成り立つものであり、演出や演技を高めるためには、自分の世界を広げることが大切だということだった。人が生活して、その中で何を感じどのような受け止めるかということまでレクチャーしていたので、有益な講義だったと感じた。講義の後半は、マインドマップワークショップを行い、自分を振り返る時間を設けていた。ただの演劇や演出論だけでなく、人が生きることを見直して、生活に活かせるような講義であった。なおかつ、参加者同士のネットワーク形成がここで行われているようで、大事な場であると感じた。改善点を挙げるとすると、モニター評価書に書かれている事業目的欄に書かれていることが、事業内容なので、何を達成するための事業なのか、劇場の支持者を増やすのか、地域の演劇を通じたつながりの形成なのか、しっかりと定義した方が有意義だと感じた。また、10年以上継続している事業なので、OGOBを含めた関係者は増えており、どこかのタイミングで外部評価を行うと良い時期に来ていると思う。

4 協議事項

(1) 委員会の情報公開会議録（案）について

・事務局から説明する。委員から意見があれば、後日申し出ることとする。

(2) 令和7年度事業計画（案）について

・市民文化会館、文化事業課の事業計画について、事務局から説明する。

委員 『文化活動者派遣事業』は、アーティストが高齢ということもあり、無くなるメニューもある。世の中では、リスキングという流れがあり、以前経験されたことがある方、流派が違うから離れている方などをもう少し活躍できる場を広げてほしいのではないかと。できる範囲で検討しますと言われたので、何か少しできるとよい。

委員 『演劇ファクトリー』は、募集チラシなどで1クールの仕組みを発信できると良い。

また、事業の告知方法について、「子ども」というキーワードが入った事業がたくさんあるので、合唱団、マーチングも含めて、子ども向けの事業をまとめたチラシを作るとこれだけの事業をやっているということの発信にもなるのではないか。同じように、外国籍の方向けの事業一覧も作ってはどうか。A館では、子ども向け事業を単発でやっていた時期があったが、それをファミリープログラムという冠を付けて、夏休みに集中させて、相乗効果を狙い実施した。

委員 『文化活動者派遣事業』は、アーティストの高齢化と人手不足で荷物を運ぶのに大変だとある。別事業の「こどもアート縁日」では、スポーツボランティアさんの活躍していた。彼らは、スポーツボランティアとして登録しているが、文化のボランティアにもすごく興味があると伺ったので、そういった人材を活用ができないか。

委員 外国籍の方も参加できる事業は、子どもは日本語が話せるけど、話せない親が、付き添いに来たときに、日本語以外のアナウンスがあるとよいと思う。

以上、会議終了

## 5 その他

### (1) 次回の委員会

日時	令和7年度2月18日(火)午後3時～
会場	豊田市民文化会館
内容	令和6年度後期事業評価報告他